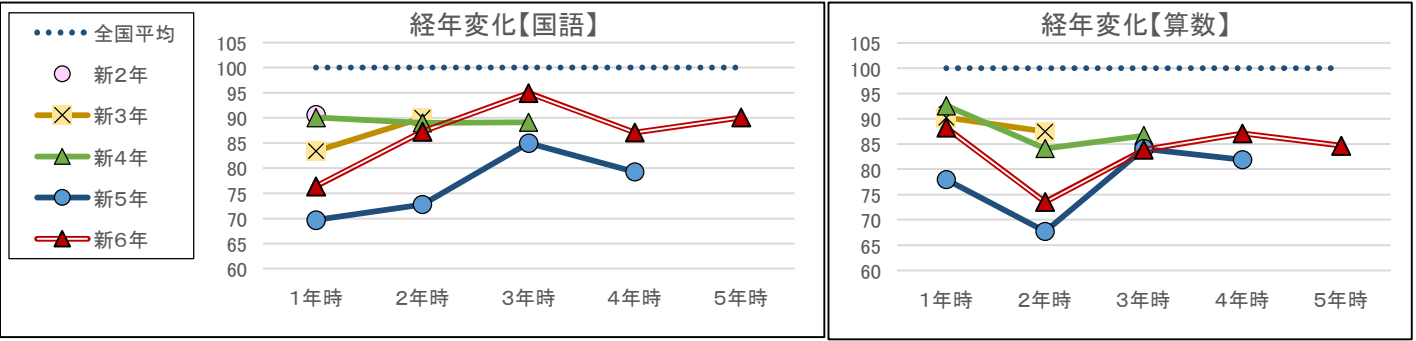


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

① 各学年の標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）

※釧路市では、3～6年生を対象に標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に●年生においても実施しています。



② 学校の状況

□本校児童の傾向として「言葉の学習」に総じて課題がみられる。これは、読書量の不足、日常的にある程度まとまった文章を読む経験の少なさに併せ、家庭での会話量や会話の内容、言語環境に影響を受けていると考えられる。また、授業においても児童の「言葉の力」を培うような学習内容が十分とはいえず、改善を要する。

□算数科においては、総じて「数と計算」の領域に課題があり、基礎・基本の定着に落ち・漏れがある。思考・判断・表現の力については、高まりがみられる学年とそうでない学年に二分される。

□本校において、朝食を食べている児童は96%と全国を上回るが、朝食を家の人と一緒に食べている児童は52%と全国（69.4%）を大きく下回る。また、家の人との約束や決まりを守っている児童は96%と全国を大きく上回り、規範意識は高いが、家族とのコミュニケーションが不足しがちで、努力や善い行いを十分に評価してもらっていない傾向が見える。

□学力下位層の児童のうち、「学校が好きである」と答える割合は33%程度となっており、将来の夢や希望を持っている児童も50%となっている。反面、「自分の力をできる限り伸ばしたいと思うか」との問いには100%「そう思う」と回答しており、指導方法の工夫改善、授業改善によって、その思いに応えることが急務となっている。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> 漢字や計算等基礎的・基本的な事項について、身につくまで丁寧に粘り強く指導すると同時に、復習や学び直しの機会を持ち、「できた」「わかった」を実感させる。 「書く力」に課題が大きいことから、書くことの頻度を上げる授業づくりを行う。 漢字や言葉などは繰り返し学ぶことが大切であることから、繰り返し学ぶ場の保障をする。 「説明できる」＝「理解している」とおさえ、少人数やペアを中心に、わかったこと、わからないこと、気づいたことなどを説明する活動を適宜取り入れる。「答え」が出て満足、ではなく吟味する話し合いを適宜設ける。 職員研修を十分行い、個別最適な学び(指導の個別化と学習の個性化)と協働的な学びとはどういった学びなのかをしっかりと共通認識し、バランスの取れた、「学ぶ楽しさ、学ぶ意味を感じられる」授業へと転換すべく工夫・改善を行う。 また、授業の中に自己決定する場、自己存在感を感じられる場、共感的人間関係を構築するに資する場を設定し、自ら学びたいと思える授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の大きな課題として学習規律が徹底されていない、という現状がある。決まったこと、決めたことをみんなで徹底して同じ指導をする、できるようになるまで粘り強く繰り返し指導する、ということができていなかったことに起因する。令和5年度は、挨拶、返事、チャイム席、座る姿勢や聞く姿勢など、どのクラスでも当たり前のことを当たり前にできるよう確認し、統一した指導をしていく。 どの学年、どの学級でも同じ学び方で安心して学べるよう大楽毛小としての学び方のルールを徹底していく。 文字の乱雑さ、習得の不確かさが見られるので、教師は板書を丁寧に書き、児童のノートと連動させながら、指導を徹底する。 授業の中に自己決定する場、自己存在感を感じられる場、共感的人間関係を構築するに資する場を設定し、学びに向かう意欲を醸成する。 愛情と信頼、友情を基盤とした学級経営を行い、学校が児童一人ひとりの居場所、心のよりどころとなるよう努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書タイムを充実させ、隙間時間や業間にも進んで本を読む習慣をつける。 朝学習では、授業との連動や、前時までの学びを復習や、定着が不十分なところの補充など、明確な意図をもって丁寧に取り組む。 放課後学習サポート「まなびや」のあり方を見直し、学年ごとに重点サポートしたり、特に補充が必要な児童への指導を確実に行う場にしていく。そのため、担任、担任外、放課後学習サポートスタッフが協力・連携し指導に当たる。 家庭学習の習慣化に向け、これまで同様、家庭学習の内容について例を示したり、ノートの作り方を示したりしながら、家庭でも取り組みやすいよう支援していく。同時に、家庭学習の時間や内容を保護者と相談しながら計画し、その計画通りに実行することができるよう啓発に注力する。 小中ジョイントの機能を生かし、学びの習慣化、スマホやゲームとの適切な付き合い方を身に付けさせる。

② 各学年の指導の重点

1年生の重点	4年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習規律の徹底。小学校での学習の約束を丁寧に指導し、できるようになるまで粘り強く指導する。特に、挨拶・返事、学習用具の使い方やノート指導、聴く態度、丁寧に文字を書くことなどは徹底して指導する。 ・ 音読に力を入れ、声に出してリズムよく文章を読んだり、理解したりできるようにする。 ・ 具体物や半具体物を使いながら数と計算を楽しみながら理解できるようにする。分かったことを自分の言葉で説明する機会を多く持ち、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語・算数共に基礎・基本が定着しておらず、知識・技能に大きな課題があるので、復習や、学び直しの機会を意図的・計画的に確保し、確実に定着させる。 ・ 説明する力の不足は、理解の不十分さからくるものと考えられるので、個で考える時間と協働的な学びの時間をバランスよく取り、その力を培う。 ・ 学習規律の徹底を図り、座り方、人の話を聞く姿勢、文字を正しく丁寧に書くことなどを改めて指導する。 ・ 朝読書の時間にはしっかり本を読むことを徹底する。 ・ 協働的な学びを大切にし、自分の考えを表現する機会をもちつつ、その時間に何を学び、何ができ、何ができなかったのかを十分把握し、次の授業に結び付ける指導を行う。
2年生の重点	5年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に対し前向きにチャレンジする姿勢を育てる。 ・ 挨拶や返事、学習規律の徹底。 ・ 学習用具をしっかりそろえるよう徹底して指導する。 ・ 相手の話を聞いて話をつなげたり、思考を広げる機会を多く設ける。 ・ 自分の考えや、学びの過程を説明する力が不足しているので、そういった力を必要とする学習活動を授業に取り入れる。 ・ 算数では、基礎・基本に大きな課題があるので、改めて復習、学び直しの機会を設け確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎・基本を定着させるためスモールステップで繰り返し学習を行っていく。忘れる前に復習を行う。 ・ ペアやグループ学習を行う中でも、友達に任せるのではなく、主体的に、積極的にかかわって学ぶ姿勢を養う。 ・ ノートやプリントに丁寧に文字を書いたり、線を引いたり、という基礎的な事項を改めて徹底する。 ・ 国語では、基本的な文章の理解に課題が見られるので、読書をはじめ、文章を声に出して読む機会を多く持ち、読解力、理解力を養う。算数では、基礎的な四則計算に大きな課題が見られるので、授業で取り扱うことはもちろん、朝学習や宿題でも取り扱い、その力を高める。
3年生の重点	6年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな課題にも丁寧に取り組む。 ・ 漢字や計算などは毎日継続して少しずつ続けるようにし、知識・技能の確実な定着を図る。 ・ みんなで声を合わせる（返事・音読）。 ・ わからないことは聴きあう。（学び合い） ・ 算数などでは考え方や理由を言葉で説明し合う機会を持ったり、習熟の時間や適用問題を解いたりする時間をしっかり持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝学習、家庭学習、放課後学習を連動させ、漢字や計算等を繰り返し行う場を設け、基礎的な力を養う。 ・ 定着率がよくないと思われる単元や、これまでに苦手としていた領域、内容について取り扱う場を繰り返し持つ。 ・ 学習規律の徹底。 ・ 読書活動を充実させ、読解力、想像力を培う。 ・ 国語では「話すこと・聞くこと」に課題が見られ、算数では知識・技能に課題が見られる。日常的にきちんと話を聞くことや一人ひとりが確実に「できたか」を見取り、確かめる指導等が不十分であったので、改めて丁寧に確かな指導を心がける。